

# 東北農業経済学会 Newsletter

## 新学会長挨拶

佐藤 了（秋田県立大学）

本学会は、東北農業を主な対象として、経済的諸問題の専門深化を図り、問題解決の方策を探る目的で1965年に発足した。つまり当初から地域密着が特色の一つであった。近年、若手を中心に投稿数、口頭報告の増加傾向やこれまで農村生活研究分野で活動してきた方々が加わるなど、学会活動の活発化や分野の拡大傾向があるが、その場合でも、地域現場の実情に即した経済的諸問題の解明と打開方策の探求という点が本学会の基調として貫かれている。

東北地域は、周知の通り豊かな自然や生物資源に恵まれている。地域経済における農業のウエイトが相対的に高く、水田を中心的な基盤としてわが国の発展を支えてきた。しかし土地利用型農業のウエイトが高いだけ、グローバル化に即応する国境措置や国政の動向からより強い影響を受ける。こうした流れは、とくに1990年代以降の輸入拡大の下で、この地域の農業・農村の喉元に突き刺さり、従来のままでは立ち行かない事態を急速に広げている。また国から示される「担い手」モデルだけでは、地域農業や地域社会の持続性や定住性、食料自給率の向上などに限定的な意味しか持ちえなくなっている。

そうであるならば、何をどうすべきか。当然それには様々な考え方があり得る。が、地域現場に即した問題解明と解決方策を探求してきた本学会には、これまでの伝統を活かして新たな事態にチャレンジしていくことが強く求められているように思う。今日、国民の食や農の安心・安全への関心が高まっている。それに呼応して環境や健康に配慮した農業や技術のあり方やその評価、農と食に関する教育などまで視野に収めた実践が、いま、様々な地域現場で真剣に取り組まれている。こうした中で、農業を中心とした地域社会の経済現象や食料・農業・農村に関する政策の効果や問題点を地域の人々の営為

に深く立ち入って具体的に解明して評価すること、そこから地域社会と地域農業の持続可能性を向上させる道筋を探り当て、それに向けて地域現場で試みられている政策実験を率直に評価して批判し、その省察の上に立った再提案が求められているのではないであろうか。そこまで望むのは無いものねだりだとしても、まず本学会に求められているのは、地域現場の真摯な実践と率直な声に学び、真剣に対話し、ともに打開の道筋を探っていこうとする姿勢なのではないであろうか。

こうした課題にチャレンジする限り、本学会の存在価値は増大していくと考える。若手やこれまで農業とあまり係わりの無かった方々にも、この際、かけがえのない食や文化、自然環境の源である農業・農山村に関心を寄せて頂ければ幸いである。

## 福島大会開催される

第42回東北農業経済学会福島大会は、去る2006年8月31日～9月1日に福島市・福島大学を会場に、会員、一般参加者あわせて約200の参加のもとで開催されました。

シンポジウム「東北地域における集落営農の可能性と課題—経営所得安定対策等を踏まえて—」（座長：東山寛氏・北海道大学大学院農学研究科、中島精一氏・福島県農業協同組合中央会）では、楠本雅弘氏（山形大学農学部）、浅野裕幸氏（福島県農林水産部経営支援領域担い手育成グループ）、石田吉仁氏（JA会津みどり営農部）、小山良太氏（福島大学経済経営学類）の4つの報告に対し、宮武恭一氏（中央農業総合研究センター）、吉井邦恒氏（農林水産研究所）、津田渉氏（秋田県立大学）の3氏からコメントが寄せられました。福島県における水田農業の現状分析と担い手対策及び集落営農のあり方について活発な討議が行われました。

近年、農村活性化対策として注目されている「女性が提案する地域の農業」を取り上げたミニシンプ

ジウム（コーディネーター：福島大学・千葉悦子氏）では、基調講演（結城登美雄氏（民俗研究家）、渡辺啓己氏（農村工学研究所）と2人のパネラー、根本君江氏（船引町生活研究グループ連絡協議会会長）、大迫麻記子氏（毎日新聞）によるパネルディスカッションが行われました。

また、4会場で行われた個別報告では会員の日頃の研鑽の成果が27課題発表されました。

## 本会総会が開催されました

福島大会で、本会の総会が開催されました。議題は以下の通りです。

- 1) 2005年度活動報告および2006年度活動計画(①編集委員会、②企画関係、③渉外報告、④庶務報告)
- 2) 2005年度会計決算報告および会計監査報告
- 3) 2006年度会計予算
- 4) 2006年度役員について
- 5) 会則の改正について
- 6) 2006年度開催地について
- 7) 学会賞選考委員会報告
- 8) その他

このうち会則の改正は、役員に顧問をおくことに伴う措置です。新しい役員は別項の通りです。2006年度開催地（07年8月開催）は、岩手県に決まりました。

なお会計決算予算は原案通り了承されましたが、わかりやすい様式で報告すべきであるという意見があり、次期大会は新形式で提案することになりました。

学会賞（木下賞）は、学術賞が中田嘉博さん（青森県ふるさと食品センター）、奨励賞が前山薫さん（岩手県農業研究センター）、実践賞が長崎悦郎さん（農事組合法人立花ファーム代表理事）と決まりました。この方たちへの表彰式は総会終了後に行われました



## 東北農業経済学会新役員

（任期：2006年9月1日～2008年8月31日）

### 【理事】

会長：佐藤了（秋田県立大学）  
副会長：神田健策（弘前大学：編集委員会委員長）  
同上：小池俊吉（東北農業研究センター：学会賞選考委員会委員長）

同上：大鎌邦雄（東北大学：企画・会計担当）

澁谷長生（弘前大学）

横山英信（岩手大学）

木下幸雄（岩手大学）

下山 禎（東北農業研究センター）

長浜健一郎（秋田県立大学）

柳村俊介（宮城大学：庶務担当）

小沢 互（山形大学：編集担当）

須田茂樹（山形県村山総合支庁産業経済部西村山農業技術普及課）

藤澤弥榮（福島県）

小山良太（福島大学：会員担当）

伊藤忠雄（新潟大学）

青柳 斉（新潟大学）

吉井邦恒（農林水産政策研究所）

小野雅之（神戸大学）

中村勝則（秋田県立大学：編集委員会事務局担当、会長指名理事）

長谷川啓哉（東北農業研究センター：学会賞選考委員会事務局担当、会長指名理事）

小川勝弘（岩手県農業研究センター：大会担当、会長指名理事）

### 【監事】

駒場 彰（東北学院大学）

菊地敬子（宮城県食と暮らしの安全推進課）

### 【評議員】

鳴海勇蔵（青森県農林水産部課長）

佐藤和夫（青森県農林総合研究センター長）

窪寺洋志（青森県農協中央会参事）

川嶋明澄（岩手県農業研究センター企画経営情報部長）

平賀勇志（岩手県農林水産部農業振興課担い手対策担当課長）

畠山房郎（岩手県農協中央会参事）

斉藤 了（秋田県農林水産部）

佐藤 実（秋田県農協中央会）

布田順一（宮城県農業振興課長）  
田中順一（山形県農林水産部次長）  
吉田修一（山形県農協中央会参事）  
鈴木 洋（山形県村山総合支庁産業経済部農業技術普及課）  
石澤孝司（山形県置賜総合支庁産業経済部西置賜農業技術普及課）  
榎本 優（福島県農林水産部経営支援領域総括参事）  
長島俊一（福島県農協中央会参事）  
道喜俊弘（福島県農業総合センター副所長）  
宮武恭一（中央農業研究センター）  
小林 巧（新潟県経営普及課）  
重野徳夫（新潟県農協中央会常務）  
三宅晃（農林水産省東北農政局企画調整室長）

## 【 顧 問 】

山根祥生（農林水産省東北農政局長）

## 岩手大会のご案内

第43回東北農業経済学会岩手大会は、平成19年8月23日（木）～24日（金）に岩手大学を会場に開催されることになりましたので多数の参加をお願いします。

詳しい日程、参加、個別報告の申し込み方法については学会ホームページに掲載しますのでホームページをご覧くださいの上申し込み願います。（今年は会員への郵送による）

開催案内通知と出席報告を廃止し、ホームページによる告知とFAX、Eメールでの出席受付を行います。）

### ◆シンポジウム（8月23日9:00～16:30）

テーマ「品目横断的経営安定対策始動下における東北の集落営農～その現状と存立条件～」

座長：横山英信氏（岩手大学人文社会科学部教授）  
宇野忠義氏（弘前大学農学生命科学部教授）

基調報告

第1報告「地域農業・農村における集落営農の役割（仮）」

長濱健一郎氏（秋田県立大学生物資源科学部教授）

第2報告「岩手県における集落営農の現状と課題（仮）」

前山 薫氏（岩手県農業研究センター主任専門研究員）

第3報告「山形県庄内地域における集落営農をめぐる動向（仮）」

角田 毅氏（山形大学農学部助教授）

第4報告「JAみやぎ登米における集落営農の実践（仮）」

阿部長壽氏（みやぎ登米農業協同組合代表理事組合長）

### ◆個別報告（8月24日9:00～12:00）

### ◆ミニシンポジウム（8月24日13:00～15:30）

テーマ：「集落営農における起業化と多様な人材の活用～農村女性のライフスタイルの実現を通じて～」

座長：吉野英岐氏（岩手県立大学総合政策学部教授）  
基調報告

「農村女性の起業化支援～ライフスタイルの実現に向けて」

佐々木きし子氏（岩手県中央農業改良普及センター一地域普及グループ上席農業普及員）

パネルディスカッション

コーディネーター：吉野英岐氏

コメンテーター：佐々木きし子氏

パネリスト：

後藤俊夫氏（（有）ライフクリエート・ケイ前代表取締役）

菊池ナヨ氏（あやおり夢を咲かせる女性の会会長）

菊池清子氏（（農）宮守川上流生産組合環境部会長）

及川烈氏（（農）原体ファーム元組合長）

## 会員名簿作成と名簿情報公開に関する意向調査について

東北農業経済学会会員名簿の作成準備をしております。名簿作成に当たりましては、2005年4月から施行となりました「個人情報保護法」を遵守することになります。名簿作成のプロセスとしまして、①各会員への会員調査票の郵送による送付、②必要事項を記入した調査票の返信葉書による返送、③会員へ名簿の送付、を予定しております。スケジュールとしましては、①を2007年4月、②の期限を2007年5月末、③の送付は2007年中を予定し

ております。

調査票の記述方法等に関する詳細は調査票に記載しますが、前述しましたように「個人情報保護法」に基づき、調査票には、項目ごとに名簿掲載の有無をお聞きすることになります。ご本人の同意が得られない場合にはお名前も掲載しないこととなります。なお、ご回答がなかった会員につきましては、理事会の責任のもとに氏名のみは掲載させていただきますので、ご了承くださいませよう、お願いいたします。

なおメールでの回答をご希望の方は、同封ハガキ裏面の記載事項と同内容のものを下記メールアドレスに返信してください。

小山良太 e-mail : [koyama@econ.fukushima-u.ac.jp](mailto:koyama@econ.fukushima-u.ac.jp)

名簿に掲載する事項につきましては、以下を予定しております。

1. 個別会員【青森県】【岩手県】【宮城県】【秋田県】【山形県】【福島県】【新潟県】／2. 団体会員／3. 大会開催地シンポジウム論題一覧／4. 役員／5. 木下賞受賞者一覧／6. 会則規程

以上、よろしくお願い申し上げます。

## 学会ホームページを大幅に更新します

本学会のHP (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/aest/>) を大幅に更新する予定です。まず大会記録等を最新のものに変えて本学会に関わる情報を整備します。また、学会に関心をもつ方に対象に、入退会の手続き、学会誌への投稿、学会発表に関する分かりやすいガイドランスも加える予定です。5月末を目処に更新作業を進めますので、時々HPにアクセスしてみてください。

なお、HPに記した連絡先の電子メールアドレスを変更しましたので、ご注意ください。

## 学会の動き

### ■学会誌第25号1号の発行予定

6月に大会特集号として刊行する予定です。

### ■担当理事会・事務局会議

新役員体制になって以来、担当理事会と事務局会議をそれぞれ2回開催しました。概要は以下の通りです。

#### ◇第1回担当理事会

日時：2006年11月18日 14:00～17:00

場所：秋田市カレッジプラザ

出席者：佐藤了、大鎌邦雄、神田健策、小池俊吉、小山良太、柳村俊介

議題：1. 2006年度の会務と担当区分／2. 学会賞選考委員会関係／3. 編集委員会／4. 企画関係／5. 庶務・会計・会員管理／6. 大会関係

#### ◇第1回事務局会議

日時：2006年12月24日 13:00～15:00

場所：東北大学農学部・大鎌研究室

出席者：大鎌邦雄、小山良太、柳村俊介

議題：1. 編集委員会との業務分担／2. 会費請求／3. HP管理／4. 会員名簿の発送／5. ニュースレターの発行／6. 会計処理／7. 第2回担当理事会の設定

#### ◇第2回事務局会議

日時：2007年1月26日 15:00～17:00

場所：東北大学農学部・大鎌研究室

出席者：大鎌邦雄、小山良太、大村道明、柳村俊介

議題：1. 学会の会計簿の整理／2. 会員名簿について／3. ニュースレターについて／4. ホームページについて／5. 担当理事会の開催要請

#### ◇第2回担当理事会

日時：2007年3月10日 14:00～17:00

場所：東北農業研究センター

出席者：佐藤了、小池俊吉、大鎌邦雄、神田健策、小沢互、小山良太、小川勝弘、柳村俊介

議題：1. 学会誌編集委員会について／2. 会員名簿の作成および会員管理について／3. ニュースレターの発行について／4. ホームページの更新について／5. 岩手大会の準備について／6. 学会会計予算・決算書について／7. 今後の学会賞のあり方について

